



2016年11月発行

TEL&FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

大鹿村の地すべり地形観察会に専門家が集結

2016年10月29日(土)～30日(日)にかけて、日本地理学会「日本アルプスの大規模地すべり研究グループ」などに所属する研究者や学生、約20名が大鹿村に集まり、地すべりが作った地形や、集落の立地と地すべりの関係などについて観察しました。

大鹿に古くからある集落の多くは、地すべりが作った緩い斜面に存在しますが、釜沢集落(写真1)のように比較的傾斜が急なところ、^{わざ}上蔵集落のように比較的傾斜の緩いところ(写真2)など、いろいろなタイプが見られることを再認識しました。特に上蔵集落は、地すべりでできた地形にしては広くて傾斜が緩いので、本当に地すべりでできた地形なのか?というところから、参加者の皆さんで考え、小渋川床から順に標高を上げて見て回り、最後は、鳥が池のパラグライダー発着場(写真3)から上蔵集落を見下ろしました。今回の観察会では、地すべりと人間生活の関係もテーマの一つであったため、チーズ工房を営む小林さんから土地の恵みを生かした暮らしについて、お話を伺いました(写真4)。(宮崎)

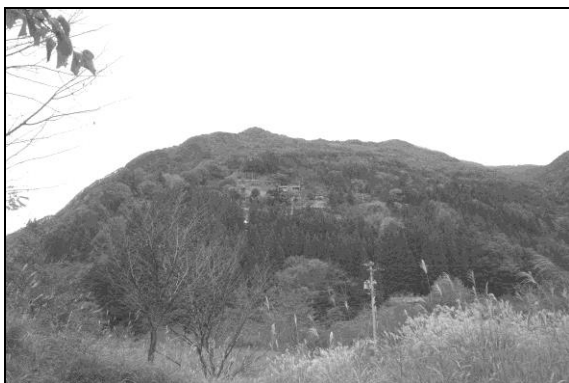


写真1 三正坊から釜沢集落を見上げる

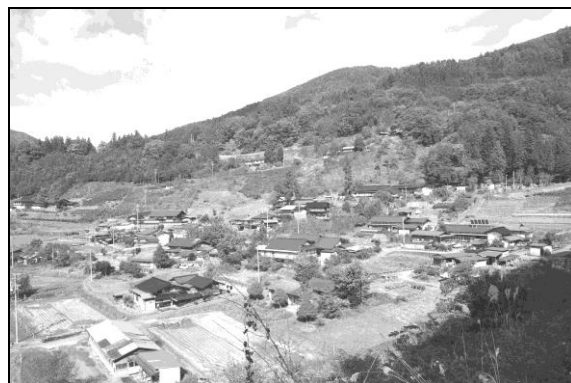


写真2 釜沢より緩やかな斜面に広がる上蔵集落



写真3 上蔵の地すべり集落を上から眺める

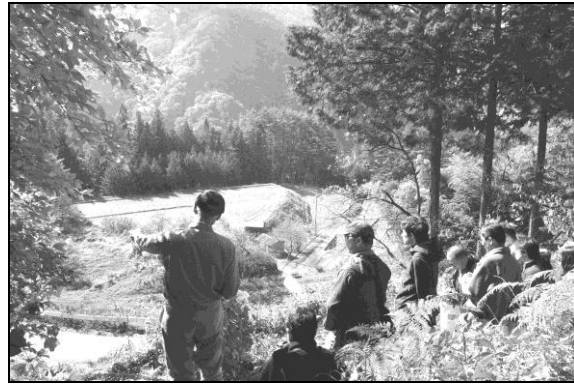


写真4 小林さんにお話を伺う

ジオパーク全国大会(伊豆半島大会)に参加

2016年10月10日(月)～12日(水)にジオパーク全国大会(伊豆半島大会)に行ってきました。その中で、三島市、^{かなみ}函南町を巡るジオツアーに参加しました。

函南町東部、箱根の南側に位置する^{たんな}丹那盆地(写真5)では、もともと豊富な水を元に稲作やわさび栽培が盛んでしたが、東海道線の丹那トンネル掘削工事により、水が枯れてしまったため、現在は酪農が主要産業になっているとのことで、おいしい牛乳やソフトクリームをいただきました。

また、丹那トンネル工事中の1930年11月26日に北伊豆地震(マグニチュード7.3)が発生し、丹那盆地の中央を通る丹那断層が2m以上横ずれし、このとき、地下160mで掘り進めていた水抜きトンネルが断層のところで完全に食い違ってしまったとのことでした。この断層の「ずれ」は、地上でも見られ、丹那断層南西にある丹那断層公園では、断層を境に石垣がずれている様子が保存されていました(写真6)。(宮崎)



写真5 伊豆スカイラインから見た丹那盆地



写真6 丹那断層公園